

心をよつめる

その十七



北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

植物に学ぶ仏さまの教え

コロナ禍の日本でおうち時間の過ごし方が見直されているなか、園芸がたくい私、コロナ禍以前から多肉植物にはまり、今では実家の自室のベランダに入りきらず、お寺の庭にまでトゲトゲの植物が置いてある始末です。和風のお寺にそぐわないかもしれませんが、参詣された方の中には、その植物たちを見て、めずらしがって話掛けて下さることもあります。

その中の一人、地元でクリーニング店を営んでいる一ツ年下の後輩が庭にある植物を見て、自分の店でも植物を置きたいと言うので、私なりの植物選びや育て方を教えたところ、彼のお店にも少しずつ植物が増えていききました。

ある日、クリーニング品の集配に

た彼が、いきなり「植物の力はすごいですね!」と言ってきました。話を聞くと、夫婦が彼のお店にやってきて植物をまじまじと見ていたので話しかけたところ、夫の方が植物好きだったようで、話が弾み一時間近く話し込んだそうです。すると一緒に来ていた奥さんが、普段夫は寡黙な人で、他人と長話するような人ではないのにと驚いていたとのことでした。

その話を聞いて、自分では気づきませんでしたでしたが、私自身も植物を通じてコミュニケーションの場が増えたように思いました。植物には、人と人をつなぐ力もあることを改めて感じさせられました。

このような植物の働きは、園芸療法として心の病などで社会生活に支障をきたしている人々の回復にも効果をも



日蓮宗 啓蓮寺
荒川 泰彦 上人

「山口と門司のお寺を歩き来しています。
植物好きの反響募集中です!」

たらしているそうです。

植物は仏さまの教えの中でも、たとえ話としてしばしば登場します。教えの中で仏さまは自身の教えを雨にたとえ、教えを聞く人々を薬草にたとえられています。薬草とは人の役に立つ草のことで、すべての人々は薬草となる可能性を秘めていて、育つのに必要な雨である仏さまの教えに触れることで、より大きく人の役に立ち、それはいつか仏の悟りという花を開かせ、実を結ぶことになるだろうと説かれています。

私が育てる多肉植物の多くは、ほとんど雨の降らない乾燥地帯に自生しています。厳しい環境の中でも少しずつ成長し、力強く生きています。

近頃ではコロナ禍ということもあってか、悪いニュースばかり目につきます。こんな世の中だからこそ、少しずつでも仏さまの教えにふれ、心の中の薬草を育てることが必要なのではないのでしょうか。



住職が大切に
育てている多肉植物



啓蓮寺

北九州市門司区柳町 3丁目 5-8
TEL 093-391-0244